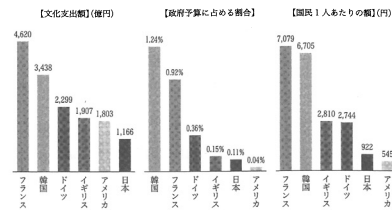


図V-2 各国の文化財保護に係る支出の比較(2019年の値で比較)
『令和2年度 文化行政調査研究 諸外国における文化政策等の比較調査研究事業報告書』より)



図V-1 各国の文化予算の比較(2020年の値で比較)
『令和2年度 文化行政調査研究 諸外国における文化政策等の比較調査研究事業報告書』より)

【問題二】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

古代から現代までの多様な文化が連綿と受け継がれ、そして巷に溢れている日本は、世界的に見ても珍しい国ではなからうか。古来、島国日本には海外からさまざまな文化が伝わってきた。旧石器時代以来、縄文時代を通して築かれた日本文化の基層に、弥生時代になって稲作、銅、鉄などの金属器が、そして漢字も伝わり、さらに六世紀には仏教が伝来し、中国に倣って日本の骨格の基礎を作った。その後、一六世紀の大航海時代には、鉄砲伝来など、南蛮文化として西洋の知識も学び、一九世紀後半からは積極的に西洋文化を取り込み、二〇世紀後半からはアメリカ文化に大きく影響を受けている。

その都度大きく翻弄されながらも、既存の文化がすべて書き消されて消えるのではなく、渡来した文化を自然に取り込んで新たな融合を生み、多層的で多様性に富んだ文化が拡大的に形成されてきた。そして、その多様で多岐にわたる文化のそれぞれを語ってくれる生き証人が文化財として残されているのである。日本の文化財が、さまざまな分野にわたってたいへんバリエーションに富んでいる所以である。

古来たびたび繰り返された内戦、明治維新後の廃仏毀釈、そして米軍による空爆、さらに災害大国日本において避けることができない地震や台風などの自然災害など、繰り返される文化財保全に対する障害は多々あるが、文化財保護法が整備され、古くからの重要な文化財が国宝、重要文化財として大事に保護されてきた。さらに、都道府県や市町村も文化財保護条例を制定し、文化財指定制度を設けている。しかし、日本文化の多様性がますます拡がっている中、文化財指定に至るまでのプロセスに時間がかかり、まだ指定に至っていない重要な文化財も少なくない。このまま手を拱いてみると、その価値が正に評価される前に、**B**した存在として消えていくことになりかねない。

これでは間に合わないということから、建造物を中心に文化財登録制度が未完成的に設けられたが、築後五〇年を越えないとその対象とはならない。そして、いわゆる指定予備群としての未指定文化財の問題は手つかずのままになっているのが現状である。このあたりの解決策として、文化庁は、有形、無形文化財を含めて地域におけるストーリーの中で管理していくこととする「日本遺産」という概念の導入を試みているが、やはりしつかりとした保護の対象としては指定文化財が優先されるのが現状である。

文化財指定制度のスピードアップ化、保存修理の充実、未指定文化財に対するケア、公開展示の環境整備など、文化財保護を取り巻くさまざまな問題も基本的には経費をかければ解決の糸口が見出せるのではなからうか。これは文化行政の根幹に関わる課題でもあるので、その全体を掌る文化庁の予算についてみておく必要があるだろう。

この文章をシッ筆するなかで、機会があれば、出会った人に、「文化庁の年間予算は国家予算のどの程度を占めているか」という質問を投げかけてきた。しかし、この問いかけに即座に正しい回答を返してくれる人がほとんどいないのが現状である。博物館、美術館に関わる人たちでも、「二・三％程度でしよう」、「少ないけど一％ぐらいはあるのかな」、中には「五％程度」という答えが返ってくる場合もある。「一〇・一％のレベルで、一〇年以上ほとんど変わっていない」というと、皆さん一様にたいへん驚くのである。どうやら、ほとんどの日本人は、「日本は文化の国だから予算も潤沢だ」という幻想を抱いているようである。令和五年度の概算要求時点では、一三五〇億円であったが、最終的には、一〇七七億円となり、前年度から一億円の増(十〇・一％)となった。一般会計予算は約一一四兆四〇〇億円であるから、文化庁予算の占める割合は〇・一％弱ということになる。イメージがしやすいようにたとえれば、一般会計予算が一〇〇〇円とすると文化庁予算は約一円に相当することになる。

私も、この話題を自ら好んでしているわけではないが、現実の話であるのでここで取り上げざるを得ない。なお、文化庁予算とは、「文化財の保護」だけではなく、芸術創作活動の振興、著作権等の保護、国語の改善・普及、国際文化交流の振興、宗教に関する事務など、文化庁が掌るすべての任務に対するものであるから、総予算に占める割合が小さいと感じるのは当然であろう。

文化庁は、二〇二二(平成二四)年から、日本、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、韓国という調査対象国六カ国における各国の文化支出額の比較を行ってきた。

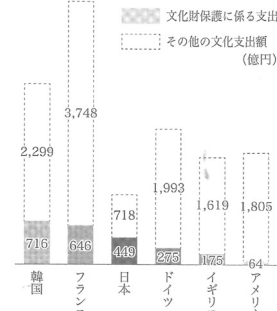
図V-1は、各国の文化予算の割合を比較したグラフである。

この図が示すように、日本は対象六カ国の中で文化支出額が最も少ないことがわかる。一方、傑出して多いのが、フランスと韓国である。フランスは、予算規模では日本の四倍、政府予算に占める割合も一％に近い。国民一人あたりの額も日本の八倍に近い。特に注目すべきは、韓国の文化政策における意気込みである。日本のほぼ三倍の支出額で、政府予算でも一・二四％と断トツの高率である。そして、国民一人あたりの額も日本の七倍を超えているのである。しかも、この文化予算の比較調査において、日本の文化予算として計上しているのは、文化庁予算と観光庁に一括計上されている国際観光旅客税財源を充当する事業予算を合算した額を用いている結果である。

日本の政府予算の中での文化庁予算の占める割合が約〇・一％という状況は、ここ一〇年以上ほとんど変化がないが、韓国では一〇年間で〇・七九％から一・二四％と毎年大幅に上昇している。

ここで、もう一つ注目すべき比較データがある。それは、文化財保護に係る支出が文化支出額に占める割合の国別の比較である。その結果を図V-2に示す。

図V-2の結果を見て驚くのは、日本では、政府予算の〇・一％に過ぎない文化庁予算の三九％が、文化財保護に使われているという事実である。文化庁は、文化財保護の他に、多くの重要な任務を抱えているのだから、そちらに



図V-3 各国の文化財保護に係る支出の比較(『令和2年度文化行政調査研究 諸外国における文化政策等の比較調査研究事業報告書』より)

回る経費がそんなに少なくないはずではないか。私としても、文化財保護の重要性を強調してはいるが、当然ながら芸術創作活動の振興などもたいへん重要なことは十分に承知している。

図V-3は、各国の文化支出額の中で占める文化財保護に係る支出の比較である。フランスや韓国では、文化財保護も充実しているが、それ以外の分野にかける経費がたいへん大きいことにも驚かされる。文化予算のバランスとしては、これが逆に健全な姿ではないかとも思えるのである。日本の文化予算は、当然ながら文化財保護の経費をさらに増やす必要があるが、歌舞伎や能楽、そして文楽などの伝統芸能、さらには舞台芸術や音楽コンサートなど、さまざまな芸術創作活動に関わる経費、そして、博物館や美術館運営にかかる経費なども大きく増やす必要があるだろう。各国と

比べてもその少なさに、「日本は文化の国」といえるのだろうかと言わざるを得ない。

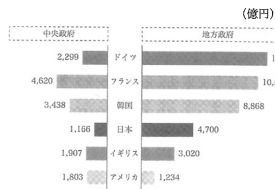
二〇三三(令和五)年の初めに、東京国立博物館の藤原誠館長が、光熱費高騰によって文化財を守る予算が不足し、ミュージアム運営に支障が出てきていることを訴えたが、この事態は国立博物館だけの問題ではない。私も関与している地方都市の博物館や美術館などは、もともと運営費も潤沢ではない中、昨今の光熱費の高騰のため、最後の手段としては閉鎖しかないところまで追い込まれているのが現状なのである。

では、どうして、文化庁の予算が低め安定で伸びないのだろうか？

その要因として「戦後の文部行政全体の重要政策案件としてまず「教育」が上位にあり、「文化」が後塵を拝したこと」が背景にあるのではないかと、青柳正規元文化庁長官は指摘している。そして、文化庁は、文化財保護法の運用を専らとする文化財保護委員会に文化局を統合した形で発足した歴史的背景があるため、当初は文化財保護が主要な業務であったことがいまも予算構成に反映されているということなのである。文化財保護法の歴史を振り返り、戦後に議員立法として成立した文化財保護法は、将来を見通した文化行政の枠組みを作る前に出来上がった特別な法案であり、今は文化芸術基本法の下に置かれることになった背景もここにあるのだろう。

最後に、もう一つ大事な比較データを挙げておきたい。各国における地方政府、日本では地方公共団体(都道府県及び市町村など)が計上する文化支出額を集計して、国の支出額と比較した結果が、図V-4である。

わが国の文化予算が少ないことはすでに述べたが、日本全国の地方自治体の文化支出額の総額は、フランスや韓国の国の予算を越えている。しかし、両国ともそれぞれの地方政府の文化支出額が国の文化支出額を大きく上回り、国と地方を合わせるとたいへん大きな額になっている。この比較データを見て、とにかく日本政府の文化予算の規模が小さいことがわかるだろう。



図V-4 各国の中央政府と地方政府の文化支出額比較(2020年の値で比較、『令和2年度文化行政調査研究 諸外国における文化政策等の比較調査研究事業報告書』より)

ここで地方公共団体の文化予算の内訳をみると、「文化財保護経費」は約一七%とそれほど大きな比率ではない。松田陽東京大学准教授によると、この一七%という比率は、少なくとも一〇年ほどは変わっていないという。そして、松田氏は、「この「文化財保護経費」の中に、「重要文化財等経費」、「埋蔵文化財経費」と「国・地方公共団体指定文化財保護管理経費」が含まれており、地方レベルの文化財経費の中には各自治体内にある国指定の文化財の管理のための支出も含まれる。つまり、比率が相対的に低い「文化財保護経費」のうちで、純粋に「地方公共団体の文化財」に対して支出される額はさらに少ない。それはすなわち、日本全体の文化財行政の中で、「地方公共団体の文化財」の保護のための支出比率がかなり小さく、逆に言うと、日本全体の文化財行政が、「国の文化財」を中心にして動いていることを意味する」という指摘をしている。

地方の時代と言わねがらもこのような現状では、指定予備群である未指定文化財の重要性を説いても、なかなか行政は動けないことが理解できる。京都府が全国に先駆けて始めた京都府下の地域に残された未指定文化財を対象とした

以上、日本の文化行政予算の現状について、これまでに公開されているデータをもとに概観してみた。もちろん、内容的なことには一切触れておらず、経費面だけの比較であるが、京都移転に伴う新文化庁がその機能を発揚するに十分な予算が獲得できているのか心配になるとともに、日本が「文化の国」として、今後ともインバウンド効果を期待するのなら、その大事な資源としての「文化財」を「活用」するためには、文化財のあり方を根本的に見直すことが必要であろう。何度も繰り返すが、「活用」のためには「保存修理」が保証されなければならない。そのためには先行投資としての経費が必要なのである。

村上隆、文化財の未来図―(ものづくり文化)をつなぐ、岩波書店

問一 傍線部(1)～(5)のカタカナに該当する漢字を含む熟語として最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- (1) 連メン ① 面積 ② 綿花 ③ 拉麵 ④ 放免
(2) ホ完 ① 逮捕 ② 補導 ③ 稲穂 ④ 保証

- (3) シツ筆 ① 執権 ② 叱責 ③ 疾風 ④ 質疑
(4) カシゲ ① 傾向 ② 斜面 ③ 勾留 ④ 曲芸
(5) 発キ ① 希望 ② 汽車 ③ 起源 ④ 揮発

問一 傍線部A「世界的に見ても珍しい国」の理由を説明したものと最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 日本は旧石器時代から頻繁に外敵の侵入を受けてきて、その都度、外国の金属器、漢字、仏教、鉄砲、アメリカ文化等といったものが国内に流入してきたが、それらを受け入れながらも海外の勢力には一度も屈服することなく、その独立を絶え間なく維持してきた、ということ。
② 日本は外的な影響を何度も受けて翻弄されながらも、既存の文化がすべて淘汰されるのではなく、渡来した文化を自然な形で取り込み、多層的で多様性に富んだ文化が拡大的に形成されているうえに、それぞれの多様で多岐にわたる文化を語る文化財が残されている、ということ。
③ 六世紀に仏教が大陸から渡来し、日本は仏教を国教とする国となったが、一六世紀の大航海時代の影響で多くの宣教師達が来日し、キリスト教も容認される国にかわり、今日に至ってはアメリカ文化まで受け入れたため、それ以前の伝統的な文化が全く残っていない、ということ。
④ 六世紀に伝来した仏教が日本という国の骨格となる基礎を形成したが、日本が開国した一九世紀後半からは多くの日本人たちがアメリカを中心とした西洋文化を学ぶようになって海外に出て行き、現在の日本人は世界各国で幅広い領域において活躍している、ということ。

問二 空欄 B に入る四字の熟語として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 加減乗除 ② 減価償却 ③ 支離滅裂 ④ 以水滅火

問四 傍線部C「出会った人に、」文化庁の年間予算は国家予算のどの程度を占めているか、という質問を投げかけてきた」理由を説明したものと最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 文化庁は日本の文化財の保護に必要な予算の少なさに苦慮しており、保護のために国民からの寄付を募っていることを知ってもらいたかったから。
② 日本は文化の国であるから文化庁には潤沢な予算が与えられているということを、一人でも多くの日本人に認識してもらいたかったから。
③ 一人でも多くの日本人に、文化庁が日本の文化財の保護について、予算の面で大きな役割を果たしているということを知らせたかったから。
④ 多くの日本人は潤沢な予算が文化庁に与えられていると思っているが、それは間違いで、実はたいへん少ないということを伝えたかったから。

問五 傍線部D「この図が示す」内容を説明したものと最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 日本は、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、韓国の五カ国と比べて、文化政策にかかる意気込みに欠けているため、二〇二〇年の値においても低迷を続けており、文化財保護についての後進国と評価されている、ということ。
② フランスの文化予算は韓国とともに傑出して多く、日本の四倍、政府予算に占める割合も一％に近く、国民一人あたりの額も日本の八倍近くにのぼっているが、韓国の文化政策に比べると僅かながら遅れがみられる、ということ。
③ 韓国は文化政策にかかる意気込みが他国よりも強く、日本と比べると文化予算についての支出額が三倍であり、政府予算においても断トツの一・二四％という高率で、国民一人あたりの額も日本の七倍を超えている、ということ。
④ この六カ国における比較調査において、日本の文化予算の額として計上されているのは、文化庁予算と観光庁に一括計上されている国際観光旅客税財源を充当する事業予算を合算した額を用いての結果にすぎない、ということ。

問六 傍線部E「芸術創作活動の振興など」の内容を説明したものと最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 伝統芸能である歌舞伎や能楽、文楽などの興業を効率よく行うために、博物館、美術館などを新築したり、改修したりする、ということ。
② 国外の人に日本の伝統的な芸術を理解してもらうために、歌舞伎や能楽、文楽などの海外公演をできるだけ頻繁に実施する、ということ。
③ フランスや韓国といった国々と同じレベルまで、歌舞伎や能楽、文楽といった伝統芸能の維持に充てられる予算を増額する、ということ。
④ 歌舞伎や能楽、文楽などの伝統芸能、加えて舞台芸術や音楽コンサートなどの活動、博物館、美術館の運営などについての、ということ。

問七 傍線部F「文化庁の予算が低め安定で伸びない」理由を説明したものと最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 戦後の文部行政は「教育」への支出が「文化」に関わる事業へのそれよりも優先されたため、文化財保護については専ら「教育」にかかわる部局がその業務を優先的に担当し、文化庁にはそれらの仕事を担う必要がなかったから。
② 戦後の文部行政において「教育」への政策が重要案件として「文化」政策に優先されたため、文化財の保護が文化庁の発足当時の予算のつく主要な業務となっていて、それが現在の予算の構成にも反映され続けてしまっているから。
③ 青柳正規元文化庁長官が文化庁長官を務めていた時代から「教育」に関わる政策が「文化」に関連する政策よりも優先されることになったため、以降は、文化庁が文化財保護に費やせる予算が著しく制限されてしまっているから。
④ 戦後、文化庁は庁への予算の増額を国に求め続けてきており、国もそのことについては前向きに検討すると回答しているものの、昨今の光熱費の

高騰などのため予算の増額を実現できずに今日に至ってしまっているから。

問八 傍線部G「日本全体の文化財行政が、「国の文化財」を中心にして動いている」の内容の説明として不適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 地方公共団体に与えられている「文化財保護経費」は、その文化予算の中で大きな割合ではない、ということ。
- ② 「重要文化財等経費」、「埋蔵文化財経費」などの文化予算が、文化財行政の根幹となっている、ということ。
- ③ 「文化財保護経費」の中に、各自自治体内にある国指定の文化財の管理のための支出も含まれている、ということ。
- ④ 日本の文化財行政の中で、「地方公共団体の文化財」の保護のための支出比率は極めて小さい、ということ。

問九 傍線部H「インバウンド効果を期待する」の内容の説明として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 海外の人々に日本を訪れてもらい、日本国内において経済活動をしてもらうことによって景気を上昇させる、ということ。
- ② 海外の人々が日本の観光地に押し寄せることによって、日本人も国内の文化財についてより詳しくなる、ということ。
- ③ 日本の文化について外国語で説明するために、海外に長く住んでいた日本人たちが日本に戻ってくる、ということ。
- ④ 日本の文化財を海外で販売することによって、海外の人々にその利便性と安さを直接知ってもらう、ということ。

問一〇 次のイ～ニについて、本文の内容と合致するものには①、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。

- イ 日本には古来から内戦や明治維新後の廃仏毀釈、米軍による空爆、その他の避けることのできない地震や台風をはじめとする自然災害など、文化財を保護するための障壁が色々あったが、文化財保護法が整備され、重要な文化財が国宝や重要文化財として大切に保護されてきた。
- ロ フランスや韓国では文化財の保護も充実しているが、教育や観光などの分野にも国が主導して多額の予算が計上されており、それぞれの国の芸術創作活動の振興が、日本とは比べものにならないレベルで成功を収め、世界的な評判となっている。
- ハ 二〇二三年の初めには、東京国立博物館の館長が、昨今の光熱費の高騰によって、文化財を保護する予算が不足し、博物館の運営に支障が発生していることを訴えたが、地方都市においては、光熱費の高騰のために、閉館を迫られている美術館・博物館が出てきているのが現状である。
- ニ 今から一〇〇年後には、維持費のかかる文化財は、予算的に文化財そのものを保存することがたち行かなくなり、電子アーカイブとしてデータで保存することになることが予想され、人々は本物の文化財を目にすることができない時代がやってくると危惧されている。

【問題二】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

一八一七年、それまではインドのガンジス河流域、とくに下ベンガル地域の風土病^{（1）}であったコレラが、突如としてインド全域に拡大する地域的流行病^{（2）}に変身します。発生はその年の八月、場所はカルカッタ（コルカタ）の北東およそ一〇〇マイルのところに位置するジェソレ（ジェッソール）でした。その翌月にはカルカッタに侵入、その後、多くの犠牲者を出しながらガンジス河にそって急速に拡大します。そして西進したコレラは一八一八年八月にボンベイ（ムンバイ）に到達したのち、そこからさらにインド国外へと拡大していきます（もちろん西にばかりではなく東にも拡大し、一八二二年には日本にも到達するのですが、いまはふれる必要はないでしょう）。こうしてコレラは、アジア・コレラ（Asiatic Cholera）として世界的流行病と化していくのです。エビデミック化ないしパンデミック化した原因として第一にあげられるのは、インドにおけるイギリス帝国主義的帝国主義的支配の確立は、第三次マラーター戦争（一八一七―一八年）の動向が端的に示しています。その戦争でマラーター同盟（中部インドのヒンドゥー教徒の勢力）が最終的に敗退した結果として、イギリスの支配にたいする持続的な武力闘争は、パンジャブのシク教徒をのぞいて当面のあいだ消滅し、そこに「インド半島全体がひとつの帝国にまとも」ることになったのです。

一八二七年の時点ですでに、インド在住の医学者リチャード・H・ケネディはこう記しています。

この四〇年の間にインド半島全体がひとつの帝国にまともになった。それまでコミュニケーションは隣接する地域の間でも遅くて、まったく当てにならなかった。ところが国内が統一されることで商業活動が盛んになり、コミュニケーションが間断なく、活発におこなわれるようになった。それだけではない。インドの端から端まで軍隊が移動できるようになった。忘れてならないのは、現在みられるような規模での間断ない交通は、一八一七年の最初のコレラの大流行のときにまさしく始まったことである。（中略）

インドの国内は無数の国境線で分断されていた。それが撤廃され、無数にあった小国家（おたがいにもいつも嫉妬し、しばしば紛争をおこしていた）がひとつの支配のもとに統合され、相互の交流が盛んになり、途切れなくなった。こうして迅速で「通常的なコミュニケーション体制がインド全土にわたって出来あがった、もしくは強制された。この疫病が異常に広まり、しかもたえず流行するようになった唯一の原因は、以上のようなことだと思われる。（見市雅俊『コレラの世界史』晶文社 一九九四、二二頁）

しかもイギリスの帝国主義の世界大の展開と、それにもなう世界交通網の整備は、コレラをインドから世界へとパンデミック化させていったのです。こうしてコレラは一九世紀末までつこう五回にわたって世界的に流行します。第一次は一八一七―一八二三年、第二次は一八二六―一八三七年、第三次は一八四〇―一八六〇年（リチャード・J・エヴァンズによれば一八四一―一八五九年（Evans 1988, p. 125）、第四次は一八六三―一八七五年、第五次は一八八―一八九六年。要

するに、コレラは一九世紀のはとんどの時期に世界のどこかで流行を見ていたというわけです。コレラは結核とともに一九世紀を特徴づける疫病だったと言ってもよいでしょう。

しかしコレラは、どこかロマン的な雰囲気^Bが漂う結核とはちがって、かつてのペストをすら想起させる疫病として、a 恐怖されるべき対象でした。

なぜか。理由は①致死率の高さ。たとえ罹^{ひしか}患者数が「チフス熱」^②（発疹チフスと腸チフス）の患者数より少なかったとしても、コレラに罹患した患者はふたりにひとり確実に死に至ったのです。③進行の速さ。発病から三日程度で「ころり」と死ぬということで、日本で「三日ころり」と称されたように、進行の速さは当時の治療法ではとめようもないほどでした。

そして③症状の激^③レツさ。『一八三三年エクセター・コレラ史』（一八四九年）の著者、トマス・シャプターの記述によれば、コレラ特有の激しい下痢による脱水症状のため、患者は「皮膚が死人のように冷たくなり、唇が紫色に変色し、目が陥没し、どぎつく、獐^{うさぎ}猛で恐怖にみちた人相」になったといひます（見市 一九九四、一六頁。こうして身体全体が青みがかることから、コレラは「青い恐怖」と呼ばれ、「ただ単に致命的であるだけでなく、体を異質な何かに変えてしまう病氣」）（ツンタグ 一九九〇、六六頁）としてカク別^④に怖れられていたのです。

コレラは第二次パンデミックのとき、はじめて中東、ロシアをへて、ヨーロッパ、そしてイギリスにまで到達します。

一八二九年八月、まずロシアのオレンブルクに侵入。そして「一八三〇年、オレンブルク流行の翌年、コレラはヨーロッパにはじめて大いなる歩を進め」、その年の九月、ついにモスクワに達します（Bardon Sanderson 1885, p. 175）。一八三二年四月には、ロシア軍のポーランド侵攻を機にワルシャワに侵入。バルト海貿易をつうじてイギリスとも関係の深かったリガに侵入した五月ごろから、イギリスは「完全なパニック状態」（『ロンドン医学報』一八三二年六月一八日号。見市 一九九四、四三頁）に陥ります。そして八月にはベルリン、一〇月にはハンブルクへ進みます。イギリス上陸はもう時間の問題です。「政府は、ハンブルクがイギリスから汽船でわずか三六時間の距離でしかないことを認識しているのか」——サー・リチャード・ヴィヴィアンなる人物のこの言葉は、コレラ侵入の危機をまよにしたイギリスのパニックを切実に伝えていきます（Morris 1976, p. 27）。

イギリス上陸は一八三二年一〇月。場所は、大陸との交易が盛んなイングランド北東岸のサンダーランド。最初の犠牲者と認定された男が死亡したのは一〇月二六日のことでした。感染源としてはハンブルクからの船が疑われました。その後コレラは、近くのニューカッスルから北はスコットランドへと拡大し、南は一八三二年二月八日にロンドンでも発生が確認されました。こうして一八三二年から三三年いっばいにかけてコレラはイングランド、ウェールズ、スコットランドに拡大し、三万人以上の死亡者数を記録することになっていきます。「怖ろしい侵入／侵略（dreadful invasion）」と呼ばれたbです（*The Quarterly Review* 46 (1832) p. 170, cited in Briggs 1985, p. 151）。

それだけではなくコレラは海峡をひとつ隔てたアイルランドにも飛び火し、その北西部、大西洋に面したスライゴーにまで達します。一八一七年にパンデミック化したコレラは、こうして第二次パンデミックのときについに、インド東部からはるばるユーラシア大陸を横切つて、ヨーロッパの西の一端にま

で達したということになります（それだけでなく、コレラはアイルランド移民とともに大西洋をも軽々とこえ、一八三二年六月、北米大陸にも到達します）。一八三二年、スライゴーに達したコレラは、地域の「人口の八分の五」を奪うほどの猛威をふるったといひます。その恐怖を体験した、当時二四歳だったシャーロットという名の女性は、のちにそのときのことを息子に語り、しかも一八七五年ごろになって彼の依頼に応じてそれを記録として書き残します。タイトルは「コレラ恐怖」。その第一節はこのようなじまります。

わたしが若かったころ、世界は新しく怖ろしい疫病の恐怖にうち震えていました。それは通過するあらゆる土地を荒廃させつつありました。その歩みは規則的だったので、人びとはそれがつきにあらわれる場所、そしてそれがあらわれそうな日付をも、ほとんど知ることができたほどでした。それが西ヨーロッパにはじめて出現したコレラだったのです。（中略）

大いなる疫病のうわさはときどき聞かれました、ちよど人びとが自分たちの近くに来るはずのない遠くの出来事のことを話すように。しかしそれがどんどん近づいていると耳にすることに、わたしたちの恐怖は増していきました。人びとは言いました、「フランスに達した」、「ドイツに達した」、そして「イギリスに達した」と。

それからわたしたちは、とり乱した恐怖のうちに、「アイルランドに達した！^⑤」という囁^{ささや}きを耳にしはじめたのです。（“The Cholera Horror,” cited in Ludman 1962, pp. 31: 25-26）

実際に「コレラ恐怖」の細部を語りはじめるや、緊迫感に富むシャーロットの文章は彼女の並々ならぬ文才を証明することになります^⑥が、その文才をとおして、一八三二年の「コレラ恐怖」は、彼女の息子の想像力の根底に残りつづけることになります。その息子というのが誰であろう、『ドラキュラ』の作者となったブラム・ストーカーその人だったのです。

どうして彼は一八七〇年代になってから、母親に「コレラ恐怖」の記録を求めたのでしょうか。それは彼が、一八三二年のコレラ流行を基にした「ぞっとする小説（grim novel）」を書くという観念^⑦にミせられてしまっていたからなのです（Stoker 1982, p. 74）。すなわち「コレラ恐怖」は、レ・ファニユの「カミーユ」がそうである以上に、ストーカーが恐怖小説を書く原点となった作品だったのです。

とはいえその「ぞっとする小説」はすぐに姿をあらわしてきただけではありません。それはまず「目に見えぬ巨人」というタイトルの子供向けの短編として書かれ、『日没の下』（一八八一年）という短編集のなかに収められます。主人公はザーヤという孤児の少女です。

町の上空に彼女は、両腕をあげた巨大な影のような姿を認めた。大きな霧のようなローブに身を包んだその姿は、徐々に大気中に消えていったので、彼女はその顔と気味の悪い亡霊のような手を見ることができただけだった。その姿はとても力強く、下に広がる町はまるで子どもたちの玩具のように思われた。

しかし町の人びとはザーヤの恐怖を物笑いにするだけです。そうするうちに「目に見えぬ巨人」は町を襲いはじめます。つぎのテキストは「巨人」

が「疫病」であることをはっきりと示しています。

みな恐怖の叫び声をあげ、声を立てて泣きながら、逃げ惑った。「巨人だ！ 巨人だ！ 巨人がわれわれのなかにいる！」その姿を見ることができないことが恐怖をいっそう大きくしていた。しかし中心に噴水があるその市場から離れる間もなく、多くの人びとが倒れ、死体をそこに横たわらせていた。「中略」人びとの泣き声はどんどん大きくなっていった。巨人——疫病——がわれわれのなかに、われわれのまわりにいる。逃れることはできない。逃げるには遅すぎる。⁵⁶ ("The Invisible Giant," cited in Faxon 1975, p. 16)

もしもストーリーカーの作家としての出発点が、母親をおして語られた一八三三年のコレラ流行にあるとすれば、「ぞっとする小説」としての『ドラキュラ』のなかにその影を認めることはじつに容易でしょう。

あいつ「ドラキュラ」はあなた「ミナ・ハーカー」を汚した (tiled)。その結果、あいつはこれ以上なにもしなくても、あなたが生きて、これまでどおりうるわしく暮らし、時いたって死ぬと——死は人間の共通の運命であり、神の是認なされたものです——、それであなを自分の同類とすることができのです。(『ドラキュラ』第二章)

ヴァン・ヘルシングがドラキュラの餌食となったミナについて用いた「汚す (tiled)」という言葉は、もともと「(疫病を) うつつ」「感染させる」を意味するものだったのです。

身体全体を青みがかった「異質な何か」に変える「青い恐怖」としてのコレラ、そして一八九二年の『北米評論』に「コレラについて」という一文を寄せたサイラス・エドソンが、「感染の被害者を順々に他の人びとにとつての感染の中心と」しながら「水のなを拡大していく波紋のように国から国へ移動していく」 (Edson 1892, p. 376) と述べていたコレラは、犠牲者を「不死者」という「異質な何か」に変え、感染の被害者を順々に加害者としながら「波紋のようにどんどん広がっていく」(『ドラキュラ』第六章)⁵⁷ ドラキュラの感染力のイメージの原型たるじゅうぶんな資格をもっていたのです。

丹治愛、ドラキュラ・シンドローム 外国を恐怖する英国ヴィクトリア朝 講談社

問一 傍線部(1)～(5)のカタカナに該当する漢字を含む熟語として最も適切なものを①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|
| (1) 突進 | ① 助言 | ② 如実 | ③ 除外 | ④ 庶民 |
| (2) コウ常的 | ① 更新 | ② 恒星 | ③ 施行 | ④ 抵抗 |
| (3) 激レツ | ① 烈火 | ② 下劣 | ③ 列伝 | ④ 分裂 |
| (4) カク別 | ① 計画 | ② 中核 | ③ 各論 | ④ 資格 |
| (5) ミせられて | ① 充実 | ② 発見 | ③ 意味 | ④ 魅惑 |

問二 傍線部A「インド半島全体がひとつの帝国にまよまよ」ることになった」の内容を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① インドの風土病であったコレラがインド全域に拡大する地域的流行病に姿を現したことで、コレラによる最大の感染国になった、ということ。
- ② イギリスの支配に対するインド側の持続的な武力闘争が完全に消滅することで、インドにおける交通の活性化がもたらされた、ということ。
- ③ 第三次マラーター戦争においてマラーター同盟が最終的に敗退したことで、インドにおけるイギリスの帝国主義的支配が確立した、ということ。
- ④ 一八一七年のコレラの大流行によってインドに現在に匹敵する大規模な交通網が整えられ、インドが一つの巨大な帝国にまよまよした、ということ。

問三 傍線部B「ロマン的な雰囲気」の内容を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 「結核」は病気であるにもかかわらず、そこに最上の美の価値を見いだされてしまった病気である、ということ。
- ② 「結核」は病気であるにもかかわらず、ある種の甘美で情緒的な物語と結びつきやすい病気である、ということ。
- ③ 「結核」は病気であるからこそ、果敢に闘病する患者の理想的な在り方が示されることになった、ということ。
- ④ 「結核」は病気であるからこそ、死への恐怖が美的に昇華された荘厳な響きをもつことになった、ということ。

問四 空欄 a・b に当てはまる最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 空欄 a | ① 徹頭徹尾 | ② 空前絶後 | ③ 跳梁跋扈 | ④ 前代未聞 |
| 空欄 b | ① 白眉 | ② 濫觴 | ③ 所謂 | ④ 所以 |

問五 傍線部C「体を異質な何かに変えてしまう病気」の内容を説明したものととして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 発病から三日程度で高い致死率で「コロリ」と死ぬことから日本で「三日ころり」と称されるようになった当時における不治の病、ということ。
- ② 激しい下痢による脱水症状によって皮膚が死人のように冷たくなり、唇が紫色に変色するなど、身体全体が青みがかかる病気、ということ。
- ③ 感染すると目が陥没し、どきつく、癡狂で恐怖に満ちた人相に変貌してしまう、一九世紀を特徴づける疫病、ということ。
- ④ イギリスの帝国主義の展開によって全世界に流行をもたされた人災によって流行した新しい文明の病気、ということ。

問六 傍線部D「彼女の並々ならぬ文才を証明することになります」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 一八三二年にスライゴーに達したコレラは、地域の「人口の八分の五」を奪うほどの筆舌に尽くせない猛威をふるったとされるが、その唯一の記録を残したのが当時二四歳でその恐怖を体験したシャーロットという女性であった、ということ。
- ② 「コレラの恐怖」というタイトルの記録には当時のコレラの伝染状況を「それがつぎにあらわる場所、そしてそれがあらわれそうな日付をも、ほとんど知ることができた」という予知的な文章で記し、その文章の通りにコレラが蔓延した、ということ。
- ③ 第二次のコレラのパンデミックの時の猛威をふるうコレラに対する恐怖の体験を息子に語ったが、それを記録として書き残したことで、その恐怖は息子の想像力の根底に残り続けることになり、シャーロットの文章についての才能がよく示された、ということ。
- ④ 「コレラの恐怖」という記録を残したのは、後に「ドラキュラ」を執筆したブラム・ストーカーの母親であったシャーロットであるが、息子の作家としての成功によってその母親の「コレラの恐怖」の信憑性と文芸性の高さが証明されることになった、ということ。

問七 傍線部E「ストーカーが恐怖小説を書く原点となった作品」の内容を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① ブラム・ストーカーの母シャーロットが書き残した「コレラの恐怖」という作品。
- ② レ・ファニユが一八三二年のコレラ流行を基に描いた「カミラ」という作品。
- ③ 「目に見えぬ巨人」というタイトルの子供向けの短編として書いた作品。
- ④ ブラム・ストーカーが一八八一年に発表した「日没の下」という作品。

問八 傍線部F「その影を認めることはじつに容易でしょう」の理由の説明として最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① 「目に見えぬ巨人」における「巨人」とは実は「疫病」の比喩であることが作品内で明らかにされているから。
- ② ストーカーは「ぞっとする小説」を描くために一八三二年のコレラのパンデミックに関する記録を参照していたから。
- ③ ストーカーの作家としての出発点にコレラを「巨人」に擬人化する作品を発表したことからコレラへの関心の高さがうかがわれるから。
- ④ ドラキュラの餌食となったミナを表現する際に、元来「疫病を」うつす「感染させる」意味の「汚す (infect)」という表現を用いているから。

問九 傍線部G「ドラキュラの感染力のイメージの原型たるじゅうぶんな資格をもっていた」の理由を説明したものとして最も適切なものを次の①～④から選び、番号をマークしなさい。

- ① ドラキュラのキャラクター設定において、その圧倒的な恐怖感を付与するために「巨人」のイメージを喚起させる工夫がなされているが、その「巨人」とは疫病を象徴しており、結果としてドラキュラとは疫病の象徴であった、ということ。
- ② ストーカーのドラキュラではミナ・ハーカーがその最初の犠牲者として描かれているが、そのミナはドラキュラによって人間ではないほかの何か、すなわちドラキュラの一族へと圧倒的な力で変貌させられてしまった、ということ。
- ③ ドラキュラによる感染は、感染の被害者を異質な何かに変えてしまう点が「青い恐怖」としてのコレラとの共通点であり、また感染の被害者が順々に加害者となって感染を拡大させる点においてもコレラとの共通点がある、ということ。
- ④ ドラキュラの恐怖小説としての成功は、ドラキュラというキャラクター造形に説得力があり、その結果として、読者に感染症のような圧倒的な恐怖感を与える作品となり、作品自体が疫病の感染力を備えていた点にある、ということ。

問一〇 次のイ～ニについて、本文の内容と合致するものには①、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。

- イ インドの下ベンガル地域の風土病であったコレラは、イギリス帝国主義の確立に伴う交通の活性化によって、世界的流行病へと変貌した。
- ロ コレラが恐れられた理由は致死率の高さと発病からの進行の早さの二点にあり、この結果として日本では「三日ころり」と称された。
- ハ 一八七五年ごろ、シャーロットという女性が書き残した一八三二年のコレラの記録は、コレラがイギリスで発症するまでに人々が陥った恐怖心を「巨人」という比喩を効果的に用いて表現した優れたルポルタージュであった。
- ニ ブラム・ストーカーは「ドラキュラ」において「ぞっとする小説 (grim novel)」の執筆を目指したが、恐怖小説を書く原点となったのは母親の記した「コレラ恐怖」という記録であった。